



『ゴミ』のイメージ一新！

‘伝統’として受け伝えていくような
地域のカタチを創りあげる！

チーム名 : SDGs MANABI-Ba for school 環境チーム

メンバー : 代表: 崎原結斗

大城貴淑乃 / 与那嶺裕里恵 / 仲村雛 / 阿部奈緒美 / 仲程こころ / 山城香音
有嶋千智 / 伊佐美空 / 勢理客瑠華 / 知念鈴羅 / 栗國日向 / 村岡愛涼

●チームの紹介など

町の課題解決会社発足を目指した団体「よなばる網がるプロジェクト」で実施されている、課外授業「SDGs MANABI-Ba for school」

SDGsの知識が0の状態から、世界や沖縄・地元を見つめ直すそして「良くしたい！」という熱い気持ちを持った学生が多く集結しています。学びの中でこの取り組みを多くの地域に広げていきたい！形にしたいという思いから今回の応募に至りました。

- ・子どもと大人が様々な場所で関わりあえるコミュニティ形成・提供
- ・枠にはまらない斬新な考えで世代を問わず学びあえる場所



サーキュラーエコノミー都市を超える ～人のつながり・文化を大切にする沖縄～

- ・ゴミを削減し、環境(海・陸・川)に負担をかけない人にも自然にも優しい街づくりをしている
- ・どこを見ても美しく、世界に誇れる豊かな自然と多様な伝統が融合する沖縄
- ・世代を問わず人々の関りが深く、チムググル・ユイマール精神に溢れる沖縄
- ・県内外に誇れる沖縄であり、一人一人が沖縄の良さをアピールできる
- ・時代の変化に柔軟に対応し、常に新たなことを学び、挑戦し、進化を惜しまない沖縄



https://www.orix.co.jp/grp/move_on/entry/2021/04/21/100000



<https://www.illustr-box.jp/sozai/90315/>

●なぜそれを実現したいのか

1. 実現したい理由

- 沖縄だけでなく世界で問題になっているプラスチックゴミ問題によって生じる影響や家庭から流れる化学物質などが海や川に流れ、魚の体内に蓄積されることが原因で食物連鎖が起き私たち人間に影響しているから。



- リサイクル率50%の循環型社会のモデルになる沖縄県を作り「環境×観光」のタグを新たな魅力として発信したいから。

※参考：徳島県上勝町「協働によるごみゼロの町へ！ゼロ・ウェイスト宣言-持続可能なまちづくり-」 <https://www.zck.or.jp/site/forum/19975.html>

- 沖縄の人は歩くことが少ない！ゴミ拾いイベントを通して歩くことで、環境活動と地域の活性化に繋がるから。

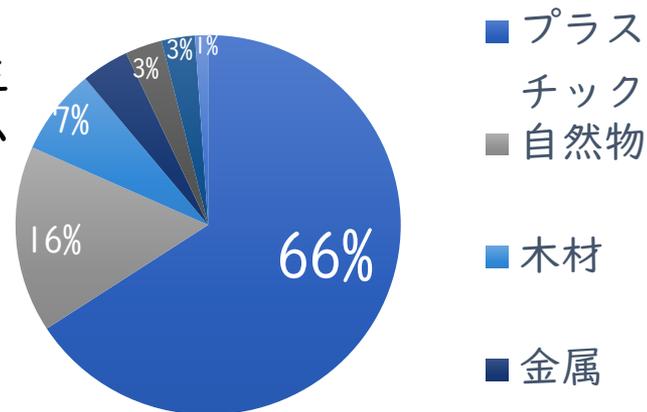
●なぜそれを実現したいのか

2. 海洋ゴミの現状

◆年間800万トンの海洋ゴミが発生している!?
 環境省の調べによると、世界では少なくとも800万トンものプラスチックゴミが海に流出しているという。そのうち毎年2~6万トンのプラスチックゴミが日本から流出していると推計されている。

◆海の生き物に悪影響を及ぼしている!
 ○生き物が体内に溜め込んだゴミ
 プラスチック, ペットボトル, レジ袋
 ビーチサンダル, マイクロプラスチックなど

海洋ゴミ 種類別割合



●どのようにそれを実現したいのか

学生を主体に、ゴミのイメージを明るくするような地域のカタチを創りあげる。

★参加者ひとりひとりの働きが及ぼす影響力を肌で感じ、喜びにつながる活動にする

★地域内住民の関わり合いや、コミュニケーションの機会にする。
観光客にもおもてなし精神を届ける。

すぐできる：日常生活を気を付ける (SDGs MANABI-Ba for schoolで手法を確認)

短期的：環境教室・ゴミ箱設置

中期的：イベント実施、コンポスト設置

長期的：商品開発

イベント案

～案1～

◎誰でも参加できて、楽しめるゴミ拾いビーチクリーンを行う！

従来のビーチクリーンだと、告知しても関心がないと人が集まらない印象があるので、誰でも参加できて、小さい子供達にも参加してもらえるように、ゴミ拾いをしつつ、子供が好きなゲーム形式でゴミを種類別に点数をつけて、チームに分かれてポイントを集めて遊びも行えるものにする。またゴミ拾いが終わった後、「面白いゴミ拾った選手権」と言い、凄いゴミ、変わったゴミ、面白いゴミを拾った人は何か与那原の有名な食べ物など景品としてプレゼントしたり、参加するごとにスタンプがもらえ景品〔イベントオリジナルTシャツやその地域の特産品〕がもらえたりなどリピートしてもらえるようなまた、楽しめるようなゴミ拾い活動をしていく。

～案3～

◎商店街や町でゲーム感覚のゴミ拾いを行う。

町や商店街の目印に、点数が書かれたゴミ箱を設置して、スマホ専用のアプリ（QRコード）と連動させる。ゴミを入れたらそのアプリにポイントがカウントされるようにする。ゴミ拾いに参加している人達のポイント数をランキングで出してみんなで楽しく競いあえる仕組みとする。さらに、オンラインアプリにして、リアルタイムでランキングが変わるので面白さもアピールする。

～案2～

◎商店街ストリートを活用したゴミ拾いをし、沖縄・与那原の美しさを知ってもらう！

与那原の商店街や役場近くなどで、仮装したり（ハロウィンイベントと組み合わせる）、人目を引く格好をしてゴミ拾い活動を行う。話題性、地域の人の関心度アップをねらい、**ゴミ拾いの活動を拡げる。まずは自分の住む地域で実践してみて、今後県全体の取り組みとして広げていく。**北谷町などで実施されるハロウィンイベントやクリスマスイベントを活用していきたい。

地域の人から敬遠されやすいイベントも、こういう活動を通してお祭りごとの多い沖縄の伝統を守りながら環境を守ることにもつながると考える。





SDGs 桃太郎物語」紙芝居



SDGsに関連した沖縄・与那原の環境・文化など、地域の今昔も組み合わせた現代版「桃太郎」を紙芝居として実演。子どもも大人もSDGsを身近に楽しく感じられる内容として作成。

【あらすじ】

洗濯機で洗濯をするおばあさん 重油を使った芝刈り機で庭をきれいにしているおじいさん
そんな家庭に生まれた桃太郎は友達もおらず1日中ゲームをしている毎日・・・

そんな町にゴミのポイ捨てをしたり、CO2を巻き散らかす車に乗った鬼がきれいだった町を汚します。
ヤンバルクイナ・琉球犬・琉球イノシシも汚染されて食べるものも無くなり、元気がありません。

それに見かねた桃太郎が町をきれいに活動し始めるのです！

【準備物】 紙芝居、可能であればマイク・スピーカー(貸出希望)

※ 5分程度/回として数回開催

※ 10名前後が、1人1人ページを手作りし、発表を行う

【企画案】 町長や役場の方も紙芝居の演者として参加いただけないか



イメージ
(長門市カナダの高校と文化交流より)





SDGs パネル展示

子どもも大人も、なぜ今後電気自動車への転換が求められているのかという理由・背景を知らないことが多い。単純にかっこいい・すごいということではなく、電気自動車に貯める電気にうまく再生可能エネルギーを組み合わせることが脱炭素にとって重要であるといった情報や、紙芝居で取り上げられたSDGsの要素などについて、パネル展示（クイズの貼り出しなど）を通して、どの国も持続可能な社会を目指していることを知ってもらう。



イメージ
(イオンモール綾川「かがわ環境ひろば」環境クイズラリーより)

Manabi-Baで学んだ内容

<p>CO2を排出しないエネルギー？</p> <p>電気最大の弱点: 貯めておけない 消費期限0秒!</p> <p>蓄電池 まだまだ高価... すぐで... 電気自動車! (EV・PHEV)</p>	<p>もっとスマートな太陽光発電はないかな...</p> <p>TOSHIBA フィルム型ペロブスカイト太陽電池</p> <p>カーポート 車を停めながら、電気を作って貯める</p> <p>https://solar.senriken.orc.orc.chroma166</p>
---	--

【準備物】 パネル4-5枚程度 (貸出希望)

※ パネルにクイズや情報を掲示

【企画案】 クイズ参加者へ各参加メーカー様などからのノベルティ提供をお願いできないか





SDGs パネル展示+SDGs スゴロク

よりSDGsを身近に気軽に感じる・知ってもらえることを重視し、沖縄・与那原を軸にしたSDGsスゴロクを作成・実施。
イベントに参加された方が、息抜きとして興味を持ってもらいつつも、健康にも環境にも
よいまちづくりについて体験してもらう。
スペースを許されるようであれば、下記のような動きのあるワクワクする仕掛けも検討したいと考えています。



イメージ
ゴー・ゴールズ (Go Goals!) (国連広報センター) より



イメージ
「ぎふの木のおうち」すごろくで遊ぼうより

- 【準備物】 パネル4-5枚程度 (貸出希望)、机・椅子 (スゴロク用・貸出希望)
- 【企画案】 ゴミ回収の協力・連携 (分別のお願いなど) ができないか

●SDGsのゴールとどう結びつくか

<p>(1)ビーチクリーンを通して子供達に楽しく環境について知ってもらい、それをイベント化することで持続的な活動が行える</p> <p>⇒持続可能な環境づくり</p>	
<p>(2)3Rを超えた無駄のない循環型の街づくりを行うこと</p>	
<p>(3)若者の発想で環境に優しい新たな商品を生み出す</p>	
<p>(4)行政と連携し地域のごみ処理の現状について学習し実践としてコンポストを利用した野菜づくり</p> <p>⇒フードロス問題の学習や世界の貧困・食育にも繋がる</p>	

私たちの目指すカタチ



- 

参加者ひとりひとりの働きが及ぼす影響力を肌で感じ、喜びにつながる活動に。

- 

地域内住民の関わり合いや、コミュニケーションの機会に。観光客にもおもてなし精神を。

私たちのアイデアを個別に実現していくのではなく、**社会システムとして全部がつながった取り組みアイデアとして実践**していくことで、今後2050年カーボンニュートラルが当たり前の社会の中で、SDGs 環境アイデアは当たり前の取組になると考えています。沖縄県の全自治体に知ってもらいたい。

サステナブルで、ワクワクのSDGsに



イベントやゲームで地域みんなに楽しんでもらおう

- ・SDGsは楽しい取組
- ・地域で楽しみ当たり前の日常に



子供たちの教育からSDGsが暮らしの当たり前に

- ・SDGsはなんだか楽しい
- ・学校だけでなく地域で学ぶ



そもそもごみを無くそう
ということから始めよう

- ・食べ残さない。食べ残しは持って帰る
- ・リユース、リサイクル



コンポスト運動を始めよう
家庭に簡単なディスプレイを

- ・肥料を使って木を育ててみたら
- ・良い暮らし方を感じる



地域住民の巻き込みでSDGsは生活につながった取組だと

- ・日常生活のあたりまえの暮らしにあるSDGs。誰もが支えあい、網がる



商品開発という視点で考える
まだまだ地産地消の良さが

- ・地域の名産品を開発する
- ・新しい技術を取り入れた新しい社会



脱炭素社会があたりまえになる。これからは、地域にある課題を解決するのではなく、未来をバックキャストして、自分たちで作っていく時代

- ・私たちが50歳を目前に迎える2050年は、脱炭素な社会になっている。SDGsの視点が社会に当たり前になり組み込まれている。「どうせやるなら、いま皆で取り組もうSDGs」